

第14回(平成26年度)私立短大入試広報担当者研修会 分科会1 報告書

運営委員：山田純（大阪城南女子短期大学）

《 目標設定 》

本研修会開催の目的にある「共有とコミュニケーション」、分科会の目的として「背景にある考えの共有」を2大目標に設定しました。その上で「小グループメンバーの発言をバランスよく」をテーマとして取り組みました。

《分科会でのスケジュール》

分科会1日目

- 1) 自己紹介：1人60秒を持ち時間として全体で自己紹介
- 2) グループ分け：構成員3名 or 4名で4グループ
- 3) OCでのよくある失敗共有：グループ内でよくあるOC失敗を出し合う
- 4) OCでのよくある失敗発表：分科会内で共有するために3) を発表

分科会2日目

- 5) 導入：昨日研修会と午前中の振り返り
- 6) 仮想短大の設立：仮想短大を設立
- 7) 特長や理念づくり：OC計画立案の骨子となる仮想短大の特長や理念づくり
- 8) 理想のOCづくり：7) を受けて理想のOC計画を立案
- 9) 理想のOC発表：分科会内で共有するために8) を発表

分科会3日目

- 10) 発表準備：全体会発表のための準備
- 11) 発表：全体会発表



《 分科会全体 》

分科会全体としては、参加者のみなさんが積極的にバランスよく発言してくださり良かったと思います。「夏休みのオープンキャンパスにむけて、研修会報告書とともに改善点を提案した」と参加者からメールもいただきました。1人の発言時間の制限や次々と課題をお願いしている中で比較的満足いただけたと考えています。入試担当部署経験年数や社会人経験年数、地域特性など異なる部分を理解した上で様々な情報交換やプランニングを行ってくださりました。自らの大学や経験談による情報交換に留まらない研修会でした。個別の情報交換は懇親会などで行い、分科会では課題解決をグループで考えるという流れは出来ていたと思います。

しかし、分科会に多くの要素を入れすぎたことを反省しています。卒業後を含めたキャリア像を小グループ内で共有することや、大学の理念(特長)を前提とした“理想のOCづくり”にはさらに多くの時間が必要でした。もう少しシンプルな構成にすることで、小グループごとの違いを縮小し、3日目全体会の発表にむけて時間をとることが出来たと思います。

《 研修会全体運営について 》

初日全体会講演から最終日まで一定の流れが出来ていたと思います。受動的な研修会でなく、常に考えて発信(コミュニケーション)を繰り返すという組み立ては、本研修会の柱として確立されていると考えますので、継続いただきたいです。

3日目の全体会場での発表準備は、所属以外の分科会の様子が見られて良かったと思います。また、統一したまとめができることも大きな利点だと思います。

分科会の分け方については多くの方法がありますので、毎回検討を重ねて進化させていきたいです。全体会の内容と分科会の内容の連動をすすめるため、全体会でどのような内容が必要かも今後の課題だと思います。

短大同士という限られた中での受験生の奪い合いでない広報を具体的に考える時期だと思います。その共有の場として研修会を活用したいです。入試広報担当者は、学外への活動を担う業務の特殊性から、学内での平均的意識との差が生まれ、日常業務で迷いやすいと思われれます。参加者が本研修会で自らの活動の方向性を再確認できればと考えています。今年度も分科会参加者から「日常業務で迷い、学内で危機感の共有ができないなど孤独を感じるがあったが、自らの考え方の方向性が決して間違っていないことを確認できました。これからも仕事を頑張れます。」との連絡を頂戴しました。短大の厳しい状況の中で、本研修会の存在意義を再確認できました。